

## 中学校につなぐ小学校での家庭科授業

－異校種教師による家庭科指導－

福良維素子 \*1 伊波富久美 \*2 山口麻衣子 \*3  
平川祐子 \*3 岩見ミカ \*3 大矢英世 \*4 篠原久枝 \*4

### Elementary School Home Economics Classes Connecting to Junior High School : Home Economics Instruction by Teachers of Different School Types

Isoko FUKURA\*, Fukumi IHA\*\*, Maiko YAMAGUCHI\*\*\*, Yuko HIRAKAWA\*\*\*, Mika IWAMI\*\*\*, Hideyo OYA\*\*\*\* and Hisae SHINOHARA\*\*\*\*

#### I. 研究の背景および目的

宮崎県においては、異校種間連携が積極的に進められているが、家庭科の小中連携教育および小中一貫教育は、まだ2割ほどの学校での実施<sup>1)</sup>にとどまっている。中学校の家庭科授業担当者の状況<sup>2)</sup>をみると、宮崎県では小規模校が多く家庭科の授業時間数が少ないこともあり、教諭の配置は全体の三分の一にとどまり、他は講師や免許外での担当というのが現状である。その点においても、小・中および高校の家庭科授業担当者が連携し、小・中・高校を見通した家庭科授業を構成していくことは本県の喫緊の課題といえよう。

これまで宮崎大学および附属小学校・中学校では小中連携に向けた共同研究を行ってきた<sup>3)</sup>~<sup>7)</sup>。“異校種の共同授業”の実施においては、中学校の家庭科教師の指導を受けて、小学生が中学校入学後の学習に対する意欲を高めた発言などがみられた。また、小・中・高校の連携のために開発された「指導記録用紙」および「ポートフォリオ型ワークシート」<sup>8)</sup>(以下、P型シートと略記)を導入した授業も実践し、学習者自身がその後の学習の見通しを持つことが、学びを深める上でより重要であることが明らかになった。しかし、中学校の第一学年でガイダンス的な授業を行うものの、小学校での学習内容が中学校で学ぶ内容に具体的にどのように繋がっていくのかという見通しを小学校段階で持つことのできる授業の設定までには至っていなかった。

そこで本研究では、小学校第6学年の食生活分野において、特にその学習内容の深化が把握しやすい“栄養”や“献立”を取り上げ、小学校での学びが中学校で具体的にどのように繋がっていくのか見通しを持つことのできる授業を構成した。また、その授業を中学校家庭科の教師が担当して実施することで、その有効性と課題を明らかにすることを目的とした。

#### II. 研究方法

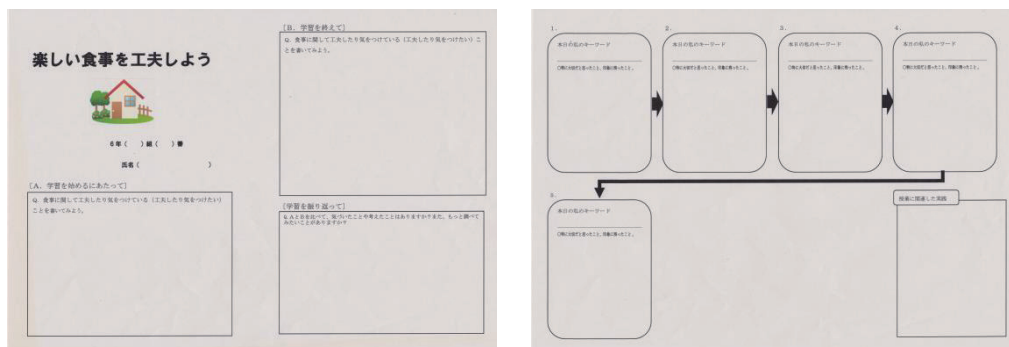
小学校の題材「楽しい食事を工夫しよう」(全4時間)の第1時を平成30年11月6日に、6年生32名(男子16名、女子16名)を対象として実施した。授業者は指導経験20数年の中学校家庭科の教師であり、授業はビデオカメラで録画した。本題材の指導計画および本時の目標

\*1 宮崎市立東大宮中学校 \*2 宮崎大学大学院教育学研究科

\*3 宮崎大学教育学部附属小学校 \*4 宮崎大学教育学部



## 資料 2：本題材で用いた P 型シート



と学習指導過程は資料 1 の通りである。授業の詳細については後述する。

授業の分析にあたっては、児童が授業中に記入したワークシートおよび P 型シートの内容を検討するとともに、録画記録からも学習への参加状況を把握した。また、授業後、指導方法および分析結果について小・中学校各々の家庭科教師に聞き取り調査を行なった。なお、本題材で使用した P 型シートは資料 2 に示している。

P 型シートの分析にあたっては、本時が題材の導入に位置付くため、【A. 学習を始めるにあたって】の「Q. 食事に関して工夫したり気をつけていること」と、本時（第 1 時）の終了後に児童が記述した「本日の私のキーワード」および「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」の内容を中心に検討した。

### Ⅲ. 研究の成果と課題

小学校の題材配列表(年間計画)を資料 3 に示す。本題材を学ぶ前に、児童は 5 年生の題材「食べ物のひみつを探ろう」において五大栄養素や体内での主なはたらきをもとにした食品のグループ分け等の学習を行なっている。また、5 年生の題材「作っておいしく食べよう」等で調理も経験していた。

資料 1 に示したように、本題材ではそれらをふまえて“食事の計画について考え、最終的に 1 食分の献立を立てること”および、“それが中学校の栄養学習や 1 日分の献立作成につながるという見通しを持たせること”を内容としていた。なお、事前アンケートでは、「中学校の学習内容を知っていますか」の問いに、知っていると回答したのは 32 名中 2 名のみであった。

#### 1. 食生活において気をつけていること

授業開始後、児童はまず、資料 2 に示した P 型シートの表面【A】欄に、「食事に関して工夫したり気をつけている（工夫したり気をつけたい）こと」を記入した。その結果を資料 4 に示す。栄養面への言及（赤字部分）が 25 名と最も多く、小学校第 5 学年ですでに五大栄養について学んでいた為、意識化されていたといえよう。それだけでなく児童の意識は、食事のマナー（青字）や衛生面（緑字）にも向けられ、広がりがあることがわかる。これは家庭科での既習内容と共に、給食指導など家庭科授業以外にも様々な場面で食の指導が行われていること、および各家庭においても食に関する教育が行われることが影響していると考えられた。

資料3：平成30年度 家庭科 題材配列表（小学校）

		5年												
		【第1学期】						【第2学期】						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
5年	家庭科の学習にあたって(1) 自分の成長と家族(1)	自分でやってみよう(19/23)			針と糸を使って(10)	身の回りを整えよう(3)	自分でやってみよう(4/23)	健康やぐらし考えた生活をしよう(4/20)	健康やぐらし考えた生活をしよう(16/20)	ミシンを使って(10)			健康やぐらし考えた生活をしよう(16/20)	家族とのふれあいをもよう(3)
		お茶の入れ方(4)	ゆでてみよう(5)											
		6年						【第2学期】						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
6年	よりよい生活について考えよう(2)	生活を見直そう(10)		寒い季節を快適に過ごそう(8)	きれいにしよう(4)	生活に役立つものを作ろう(4/14)	生活に役立つものを作ろう(10/14)	生活に役立つものを作ろう(10/14)			楽しい食事を工夫しよう(4/12)	楽しい食事を工夫しよう(8/12)	よりよい生活をめざして(6)	
		生活時間の工夫をしよう(2)	朝食にあうおかずを作ろう(8)											一食分の食事について考えよう(4)

2. 授業への参加状況

今回の授業は、中学校家庭科の教師が初対面の小学生に授業を行ったため、当初は教師も児童も緊張していたが、その日の朝食や前日の夕食を振り返る場面を設定したことによって、児童は自分の食生活について語り始め、スムーズに授業内容に入ることができた。また前述の通り「食事に関して工夫したり気をつけていること」として、多くの児童がP型シートに栄養面について記述していたが、教師の問いを契機に朝食や夕食の実際を見つめることにより、頭では“栄養バランスを取ることが必要”と分かっているが、いざ“現実の食事はどうなっているか”と振り返ってみると、そこには開きがあり、教師はその実態を児童に意識化させていた。その上で、教師は本時の目標を提示し、本題材では1食分の献立を立てるためにどのようなことを考える必要があるのか検討していくという、学習への見通しを持たせた。

①給食から弁当への移行

次に教師は、本題材で取り扱う「1食分の献立」作成の例として昼食を取り上げ、小学校での給食が中学校での弁当につながるよう、まず「自分が食べたいお弁当」をワークシートに図と言葉を用いて記入させた。資料5に例示したように、児童の半数以上は、「からあげ」や「卵焼き」などの弁当の定番といわれるおかずを描いていた。野菜や果物に関しては、「ピーマン」などの食品名や「野菜」といった総称での言及のみで、“ほうれん草のおひたし”など料理名をあげていない例が10名ほどにみられた。食材と具体的な料理を結び付けることが、児童にとっては難しいことが推察される。また、野菜や果物など“体の調子を整える食品”も加えて3つの食品群で考えようとしてはいる様子は伺えたものの、その“量”は意識されていなかった。

## 資料4：P型シート（ポートフォリオ型シート）への記述内容

No.	【A:学習を始めるにあたって】 「Q.食事に關して工夫したり気をつけていること」	1 時 前 目 (本時)	
		本日の私のキーワード	物に大切だと思ったこと、印象に残ったこと
1	・食べる前に手を洗う ・食料の産地を見る ・ねだん	未記入	未記入
2	・はしを止めない ・これ！を置くところ ・栄養のバランス	バランス	弁当は、やはり色、栄養バランスが大切だ。
3	盛り付け 調味料、たくさん落とさない 量などに気をつける ゆっくりかむ	バランス	この授業で印象に残ったことは、やはりバランスです。食事はバランスをみたいと感じています。
4	・バランス・時間	栄養のバランス	・栄養の分類が簡単に分かれるとうこと。 ・バランスよく栄養を摂ること。
5	・一つだけの物ばかりなく、全部バランスよく食べている ・できるだけ好き嫌いがないように食べている ・口の中に食品が入っている時はしゃべらないようにしている・よくかむ	卒業生	・卒業生の弁当を考えるのがとても楽しかった。
6	・バランスの良い食事 ・見た目・味付け	バランスの良い食事	緑の野菜や黄色の調味料など色とりどりで、栄養のバランスも取れることが分かった。
7	工夫していることは、あたためる温度を調節しているということです。きれいなものを食べる	バランス!!!	今日の大切だったことは、栄養のバランスに気をつけることです。
8	・「こがさないように、おいしくできるように、いれいせいできに、いただきませう、ごちそうさまでしたを言う」	バランス	・きちんと食生活に気をつける ・つづに分かれる
9	・「いただきますを言う」「ごちそうさまを言う」 ・自分で食器をおす「なんでも食べる」と	弁当のバランス	弁当は見た目だけではなく、内容も必要。内容は、たんぱく質、無糖質などの五大栄養素が必要なので、バランスの良い弁当を作らなさいといわれました。
10	・「できるだけ、たまごを煮る。」「きれいなもの(ビーマンやゴーヤ)は、茶と一緒に食べる。→できるだけ食べる。」	こん立	卒業生が誰かのために作るのがすごい！私も作ってみたい！
11	・「バランスよく野菜とかもしっかりと食べる」 ・色を多くする一癖ばかりではなく ・毎日献立のものを食べる	バランス	弁当を作る時に、色の数をなるべく多くする
12	・「期業(味)期限」「栄養バランス」「産地」「量」「値段」	バランス	ごはんを食べる時には、自分の好きなものだけでなく、いろいろな野菜ももちろん食べなければいけないことが分かった。
13	・「手をきれいに洗っている」 ・「食料のくわっているところは取り除いたりなどは水で洗います」 ・「賞味期限や消費期限について」 ・「栄養のバランス」	五大栄養素	卒業生ではつづになる、おにぎりやパン、お味噌汁、お漬物、お茶、お水、お塩、お酢
14	・「バランスの良いメニューにする。」	バランス	五大栄養素は大切だと思いました。
15	・「栄養のバランスを崩さず、片寄らないようにしている」 ・「衛生管理」	六大栄養素	バランスよくはむずかしい。
16	・「できるだけ自分の食べ物を食べる」 ・「自分のものを食べる」	栄養の大切さ	いつもは何も考えずに食べている弁当も栄養のことを考えて作らなければいけないことを知って、今度からは意識して弁当を作りたいと思いました。
17	・「調理の時に、ほろろと水を張って同じ高さで切る」	栄養のバランス	お弁当の中身をバランスよく入れること、ビタミン、タンパク質、炭水化物、しつお弁当はおいしく食べるとか、甘い物はあまり食べるとか、自分の苦手なものも食べると健康に良い食事ができる。
18	・「おかしなどの甘い物はあまり食べないこと。でも量は、魚が苦手とお肉ばかり食べてしまうから、ちゃんとお肉も食べていきたい。」	バランスに良い食事	・「バランスよく食べる。」「味付け・色などの見た目」
19	・「バランスよく食べる。」「味付け・色などの見た目」	バランス	・「バランスよく食べる」が大切で五大栄養素をお弁当に取り入れる事が大事だと思った。 ・「生協の万かんのメーカーが気に入った。」
20	・よくかむ・食べなすぎない・食べすぎない ・時間を決める(食べる)・水を飲む	バランス	バランスを考えて食べることが大切だと思った。
21	・「落とさないようにしている」 ・「はしの持ち方やごはん、おみそしるなどのはいげんを気をつけている」 ・「いただきます」や「ごちそうさまでした」	栄養	・「バランスよく、あまりかきすぎないために栄養のある食べ物を食べる。」
22	・「バランス」	バランス	食事をするときは、やはりバランスを考えないといけないことが改めて分かった。
23	・「三角食べ」「バランス」「色合い」「味・安全かどうか」 ・「見た目・しゃべり」「時間」「だれかのためを思って作る」食べる・気持ち	健康なお弁当	どんなにおいしく見えた目がかんたんやつでも、しっかり栄養のとれたお弁当じゃなくてはならないと思った。
24	・「栄養バランス」「いろいろ見たい目？」	栄養バランスを大切に	見た目や好き嫌いもあるけれど、栄養バランスをしっかりと考えないといけないことが分かった。
25	・「作る上や食べる上や手を洗う」 ・「バランスが良いか考える」	見た目だけでなくバランスも大切	色とりどりにするのではなく、食べる人にもあったものをバランスよく作る
26	・「ご飯の上にはおはきさない」 ・「おかずやご飯の位置(場所)」	バランス	いろいろやバランス、栄養などを考えて作るのがとても面白いと思いました。
27	・「作る時は、食べる人のことも考えて」 ・「食べたりする時は、マナーに気をつけて」 ・「作る時は、肉ばかりや、やっぱりばかりだけではなく、バランスよく作る」 ・「食べる時は、全てをのむをバランスよく」	五大栄養素	弁当を作ったときの感謝に「五大栄養素」が多く出てきていたからです。
28	・「こん立てのバランス」「調味料の量」「均等」「食料の保存法」「器具の使い方」	バランス	・「こん立てや栄養のバランスは大切だと改めて学びました」 ・「色合いも大事」
29	・「バランスの良い食事」 ・「盛り付け」	栄養バランス	栄養やバランス、卒業生のお弁当、などについて分かりました。
30	・「野菜、お肉などをバランスよく食べる」こと。 ・「できるだけ残さずに食べる」こと。 ・「あまり好き嫌いをしない」こと	野菜をとうろ	お弁当にしっかりと野菜を入れて栄養をとることが大切だと思いました。
31	・「かたよった食事をしないこと」 ・「嫌いなものをできるだけ食べる」こと ・「出されたものを残さないこと」	バランス	・「お弁当を作ってくれる人も、いろいろバランスを考えてつくっていることがわかったこと」 ・「お弁当をつくる相手によって量や食料は変わってくるということ」
32	・「食べ方」 ↓ ・「野菜から食べる。」「バランス」「三角食べ」 ・「好きな物はあまり食べない」 ・「おまーいもの(おかし)はあまり食べない」 ・「食べる時間を決める」 ・「白飯を残さないように食べる」	卒業生の家庭科について	ごはんをバランスよく作りだれかに作る時も、その人の事を考えて作らなさいといわれました。小学校で習ったことは、しっかり覚えておかないといけないことが分かった。

赤字：栄養面  
青字：マナー等  
緑字：衛生面赤字：弁当の記述  
青字：彩り・相手意識  
緑字：中学校などへの言及



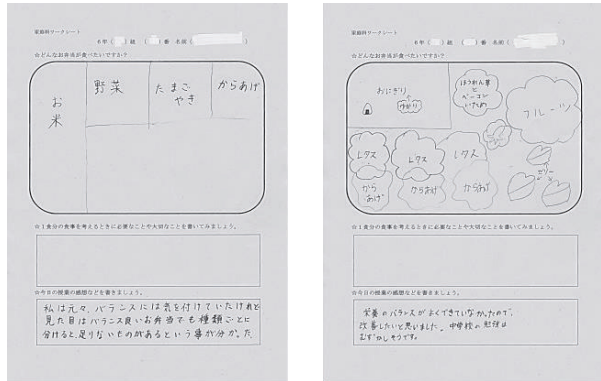
食品の量は中学校で取り扱う内容となっているため、そのような結果になったといえる。同様に弁当の“彩り”についても意識は向けられていなかった。

他方、1食分の食事として弁当を考える学習活動に対しては、グループ内で児童は意見を盛んに交わしながらワークシートへの記入を行い、全体の場でもそれらについて積極的に発表しており、意欲的に取り組んでいたといえる。

その後、授業では中学生が作成した「お弁当のレポート」(資料6)が提示された。これには、中学生が作成した“栄養バランスを考えた”弁当(写真1)や“食べる相手・家族を意識した”弁当(写真2)、“彩りを考えた”弁当(写真3)などの写真や解説が載っており、そこには、使われている食材が6つの食品群に分類されて、分量も示されている。さらに教師は“季節感のある”弁当や“地産地消を意識した”弁当などの例を示し、多様な視点から弁当が作られていることに目を向けさせていた。

加えて課題意識を持つことも意図し、敢えて“栄養バランスや彩り”に偏りのある弁当も提示した。児童は自分たちの先輩が様々な視点から作った弁当、また今後自分たちが中学校で作ることになるそれらの弁当に高い関心を示し、自分が描いた弁当と比べつつ教師の説明に耳を傾けていた。

資料5：児童が記入した弁当の例



資料6：「お弁当リポート」の例(写真1)

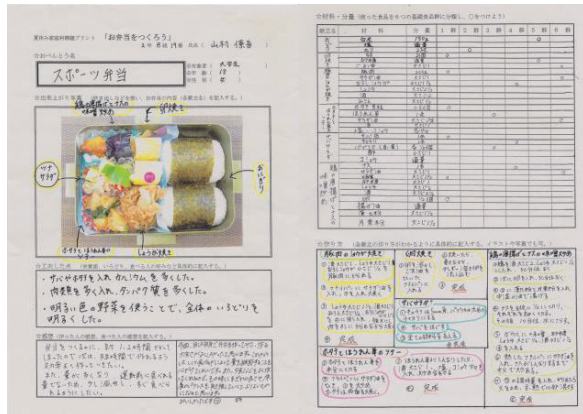


写真2

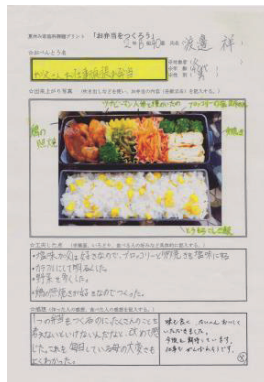
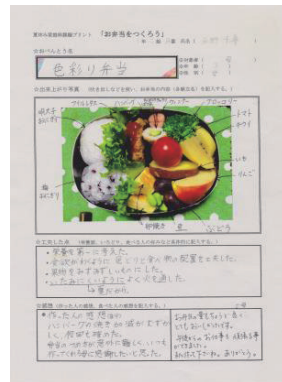


写真3



## ②本時の内容把握と中学校での学習への見通し

その後、本題材では、第5学年で学んだ栄養素をふまえ、3つの食品群に着目しながら献立を立てていくこと、それが中学校では、より詳しく「お弁当レポート」で見たような6つの食品群で献立を考えていくことを、「6つの基礎食品群」のカードも提示しながら伝えていった。さらに、「食事摂取基準」や「食品群別摂取量のめやす」についてもカードを示し概略を解説しながら、小学校で学んだ内容が中学校につながり深化していくことに着目させた。また小学校では1食分の献立を立てるが、中学校では1日分の献立を考えていくことにも言及した。そして、授業のまとめの段階では、中学校で学ぶ家庭科について、中学生からのビデオレターとして映像でメッセージが伝えられた。

授業後、本時について児童がP型シートに記入した内容は資料4の通りである。「本時の私のキーワード」では、“(栄養の) バランス”や“(五大) 栄養(素)”を挙げていた者が24名と最も多く、それらが本時の内容の中心と捉えられていたことが、一目で把握できた。さらにその詳細を「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」の記述で見ると、“弁当”へ11名が言及していた。本時においては、栄養バランスを中心に、弁当作りについて考えていた児童が多かったといえる。弁当作りに関しては、“彩り”や“相手意識”についての記述もみられ、中学生の「お弁当リポート」の事例が示されことで、栄養バランスだけでなく、弁当作り(献立作成)の視点がふえた児童もいた。その一方で“量”についての言及はみられなかった。

他方、“中学校”や“中学校の家庭科って?”を「本時の私のキーワード」として挙げたり(下線部)、「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」において“中学校”や“中学生”、“先輩”への言及(下線部)もみられ、それらに関心を示していた。

また、ワークシートの「授業の感想」欄への記述においても、中学校や中学生へ言及しながら感想を記述した児童は21名と半数以上を占めていた。

資料7に例示したように、「バランスなどは中学生でも習ったりするから、今の学習は大事なんだと改めて思いました。」や「中学で学ぶことと、そのために小学校のうちに学んだ方がいいことなどがわかった。中学校に向けて今のうちにしっかりと学習していきたい。」などの記述が見られ、小学校での学習が中学校につながっていること、そしてそのために今、どのように学ぶべきかを意識できた児童もいたといえる。他方、「中学校で習うことが難しいことがわかった。」や「中学校の家庭科は難しそうだけれど楽しそう。」など、学習内容が難しくなることへの不安と期待ものぞかせていた。

## 資料7：授業の感想(例)

- ・ お弁当を送る相手も考えないといけないんだなということも分かったし、バランスなどは中学生でも習ったりするから、今の学習は大事なんだと改めて思いました。
- ・ 栄養バランスや中学で学ぶことと、そのために小学校のうちに学んだ方がいいことなどがわかった。中学校に向けて今のうちにしっかりと学習していきたい。
- ・ 中学校で習うことが難しいことがわかった。そのことは、今のことをもっと深く勉強することがわかってすごかったです。
- ・ 中学校の家庭科は難しそうだけれど楽しそう。楽しい時間をありがとう。
- ・ 中学校ではどのようなことをするかなど中学生に向けていろいろなのが知れた。
- ・ 中学校で学習する内容がわかりました。お弁当のバランスやいろどりなども考えて作るのが難しそうだなと思いました。

授業を担当した中学校家庭科の教師は、「今回、小学校での授業を行うために、小学校の学習に関する教材研究を行ったり、実際に授業をしたことで、小学生の様子を知ることができ、とても勉強になった。そして、小中高の連携の必要性についても考えた。」と振り返り、教師自身が小学校での学習内容や小学生の実態を学び、小中の連携さらには高校との連携に目を向ける機会になっていた。と同時に、児童の感想に「中学校の学習内容が難しそう」とあったことに対して、「中学校では、学習したことを“やってみたい”、“やろう”という気持ちが引き出せるように工夫した授業を展開していきたい。」と、今後の授業づくりに対して前向きな姿勢を示していた。一方、小学校の教師も、「小・中学校のつながりを意識しながら指導計画を立てたことで、系統的な指導を行うことができた。」と述べ、中学校の教師とともに本授業の計画を検討するなかで、自身の小学校での指導の見直しが可能になっていた。

#### IV. 今後の課題

以上、異校種である中学校の教師が小学生に対して、中学校での学習内容を提示し、また中学生によるメッセージ（ビデオレター）も加えながら授業を行った。それにより、児童は栄養バランスを中心に、弁当作りの視点について考えるとともに、栄養や献立についての学びが中学校でさらに深まっていくことを意識することができたといえる。児童の「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」や「授業の感想」の記述からは、中学校につながっていく小学校での学びを疎かにしてはいけないとの意識も生じていることが明らかになった。

今回は、弁当を取り上げながら中学校への学習を見通すことに主眼を置いていたため、「6つの基礎食品群」、「食事摂取基準」、「食品群別摂取量のめやす」などのキーワードの詳細について触れてはいなかった。今後、中学校でそれらを学ぶ際には、小学校での内容が基礎になっていることに再度目を向けた上で、それらについての理解を深めていくことが重要である。今回、十分に触れることのできなかった食品の“量”についても同様で、小学校では量についてほとんど学んでいなかったことを意識化させることで、中学校で学びが深められていくことが実感されるであろう。そのためには、P型シートを活用して小学校での自分の学びについて振り返ることが有効と考えられ、引き続き、その効果を検証していきたい。

また中学校の教師も、出身小学校ごとに異なる既習内容を、申し送りされてきた「指導記録用紙」をもとに把握し、個々の児童によって異なる対象理解度の程度や内容について、P型シートを活用することでクラス全体の傾向の把握が可能になる。それらをふまえた上で授業を構想していくことが肝要であろう。さらに、高校においても「指導記録用紙」やP型シートを活用し、小・中学校とのつながりを学習者が意識できる授業を構成していけるよう働きかけていくことが今後の課題といえよう。

#### 【引用・参考文献】

- 1) 山村季代, 伊波富久美他.(2017). 宮崎県における小中連携教育及び小中一貫教育の現状と課題—家庭科教育担当者に対する実態調査を通して—. 宮崎大学教育学部紀要, (89),13-21.
- 2) 伊波富久美.(2014). 小中連携を支点とした家庭科の展望-家庭科授業担当の現状を踏まえて-. (原国男・中山迅他編著). 小中一貫・連携教育の実践的研究. 東洋館. 173-183.
- 3) 福良維素子, 川崎夕子, 平川祐子, 岩見ミカ, 篠原久枝, 伊波富久美. 家庭科教育における小・中連携



- の授業実践－合同授業による調理実習の検討－．宮崎大学教育文化学部紀要教育科学第 29 号 ,pp.1-10. 2013
- 4) 福良維素子, 川崎夕子, 前村育実, 岩見ミカ, 岡村好美, 篠原久枝, 堀江さおり, 伊波富久美. 小・中連携による 5 年間を見通した家庭科の授業計画－中学校の被服領域を中心に－．宮崎大学教育文化学部紀要 創立 130 周年記念特別号 ,pp.173-185. 2015.
  - 5) 伊波富久美, 川崎夕子, 福良維素子, 平川祐子, 岩見ミカ, 篠原久枝他. 小・中連携をめざした家庭科授業の構想－「物や金銭の使い方」に関する授業実践をふまえて－．宮崎大学教育文化学部協働開発センター研究紀要 第 24 号 ,pp.77-87.2015.
  - 6) 福良維素子, 山口麻衣子, 伊波富久美, 山村季代, 岩見ミカ, 篠原久枝. 被服製作学習におけるアドバイス活動を導入した小・中連携の試み. 宮崎大学教育学部紀要 芸術・保健体育・家政・技術 第 89 号 ,pp.23-36. 2017.
  - 7) 伊波富久美, 福良維素子, 山村季代, 山口麻衣子, 中島美紀, 岩見ミカ, 篠原久枝. “ポートフォリオ型ワークシート”を活用した小・中・高校の連携に向けた試み－ 中学校・住居学習を中心に －. 宮崎大学教育学部紀要. 第 91 号 ,pp.1-10. 2018.
  - 8) 伊波富久美, 山村季代. 小・中・高校の学びをつなぐ「指導記録用紙」と「ポートフォリオ型ワークシート」の開発－住生活の内容を例として－. 宮崎大学教育学部紀要第 91 号 , pp.11-25.2018.